



H4-CA-211-R01

審査資料の品質確認について

2022年1月12日

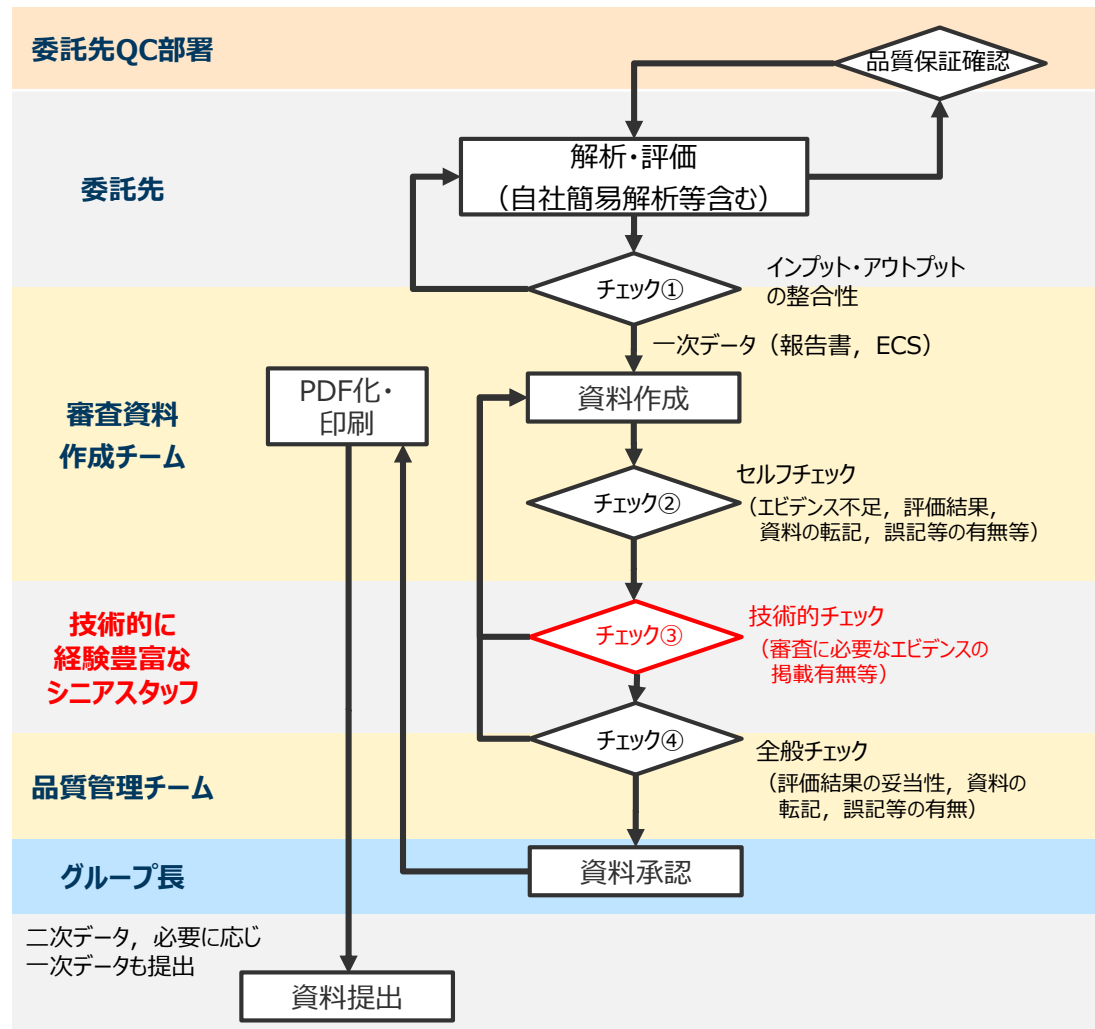
必要なエビデンス織込みのための品質確認体制の改善（2018年6月）

- 審査に必要なエビデンスが審査資料内に反映できていないことが続き、2018年5月の審査会合にて原因究明、品質保証管理の改善を含めた再発防止策についてコメントを受け、2018年6月4日の面談にて、資料作成の品質確保のためのPDCAを回し、経験豊富なシニアスタッフにより第三者目線からエビデンス織込みの可否を含めてチェックを行うこと、および改善した品質確認体制について報告を行った。
- これ以降、この改善後の品質確認体制を機能させている。

| 発生事象 | |
|--|--------------------|
| 審査に必要なエビデンスの審査資料内の不足 | |
| 2017年9月15日 第509回審査会合（プレート間地震の津波評価） | 波源モデルのパラメータ設定根拠未記載 |
| 2018年2月9日 第547回審査会合（地震以外の要因による津波評価） | 海底地すべりの概略緒元未記載 |
| 2018年5月11日 第570回審査会合（内陸地殻内地震の地震動評価） | 設定根拠、考え方未添付 |
| <p>審査会合に手戻りがないようにするため、こういったことの原因究明および品質保証管理の改善を含め、再発防止策を講じていただきたい。</p> | |

| 発生要因 | |
|--|--|
| 審査資料作成チームは資料を作成することに注力しており、エビデンスを織込むところまで気が回っていなかった。 | |
| 品質管理チームは与えられたエビデンスとの照合は出来たが、技術的なエビデンス添付可否を判断できなかった。 | |

| 対策 | |
|---|--|
| 部内の技術的に経験豊富なシニアスタッフにより、第三者目線からエビデンス織込みの可否を含めてチェックを行う。 | |



QMSに基づくデータ貼り間違いの是正

- 2020年に審査会合に先立ち、敷地の地質・地質構造についてH断層系の位置の最新化を進める過程において2016年1月8日 第316回審査会合で提示していた反射法探査の結果の速度断面と深度断面の貼り間違いを発見し、2020年7月3日 第871回審査会合にて報告した。
- 原因究明を行ったところ、解析途中のデータと最終のデータが同じ保存先に混在して保管されていたことから、確認不足による貼り間違いが発生したことを確認。
- 今後の対策として、解析途中のデータと最終的に審査資料に掲載するデータの保存先（フォルダ）を事前に分けることで貼り間違いを防止することとした。加えてQMSに基づき同種の間違いが基準地震動や基準津波の過去の資料にも無いかを水平展開し並行して確認することとした。
- その後、地震動の過去資料で同種の間違いを発見し2020年7月31日 第882回審査会合、2021年7月16日 第992回審査会合で報告した。

発生事象

2016年1月8日 第316回審査会合（敷地の地質・地質構造）

反射法探査の結果の速度断面と深度断面の貼り間違い

→ 2020年7月3日 第871回審査会合で報告

発生要因

解析途中のデータ（速度断面）と最終のデータ（深度断面）を同じ保存先（フォルダ）に保管しており、似た様なデータが混在していたことから審査資料作成時の確認不足により貼り間違いをしてしまった。（二次データ作成ミス）

対策

解析途中のデータと最終的に審査資料に掲載するデータの保存先（フォルダ）を事前に分けることで貼り間違いを防止する。

また、同種の間違いが基準地震動や基準津波の過去の資料にも無いかを並行して確認する。

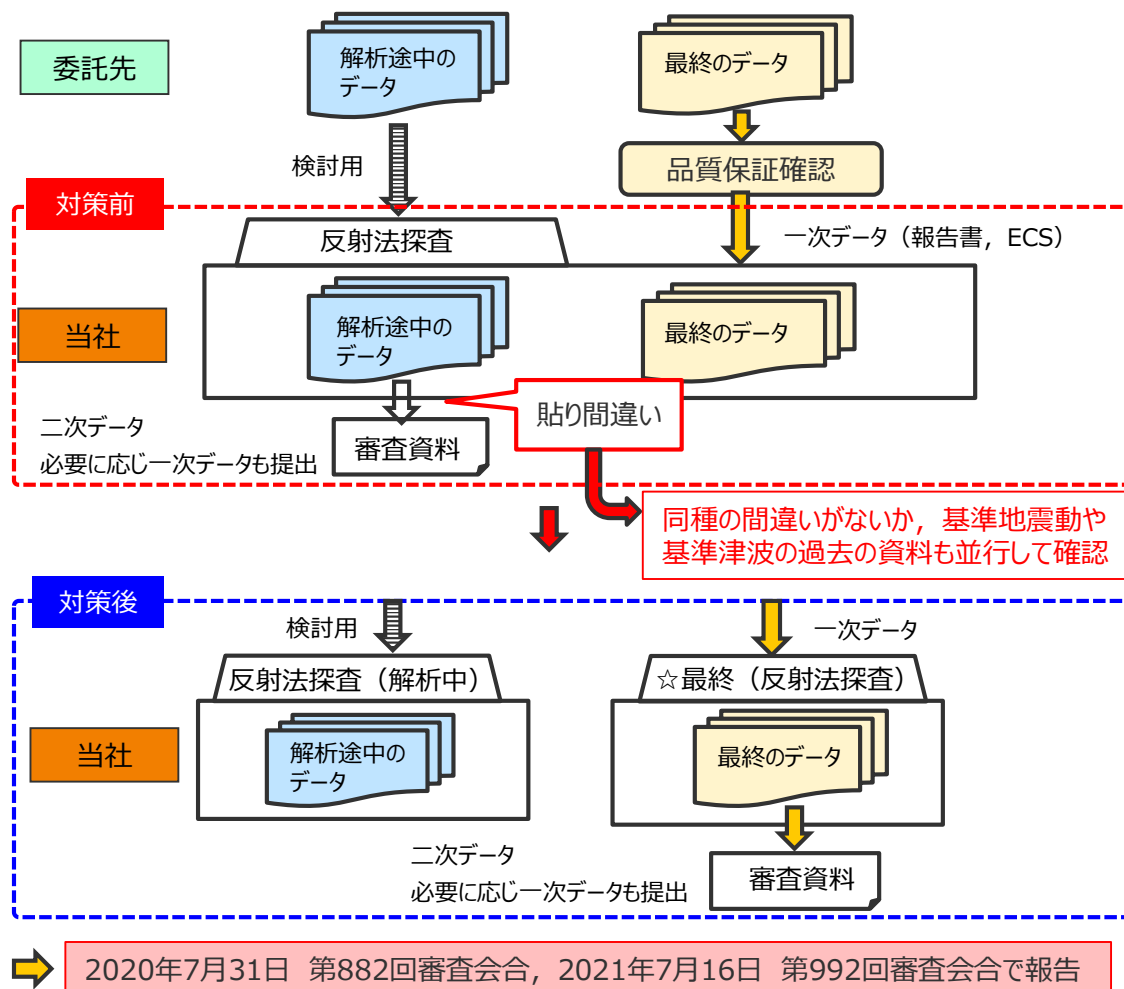
↓ 地震動の資料で同種の間違いを発見

2014年12月19日 第176回審査会合（地下構造）

地盤モデル記載の間違い

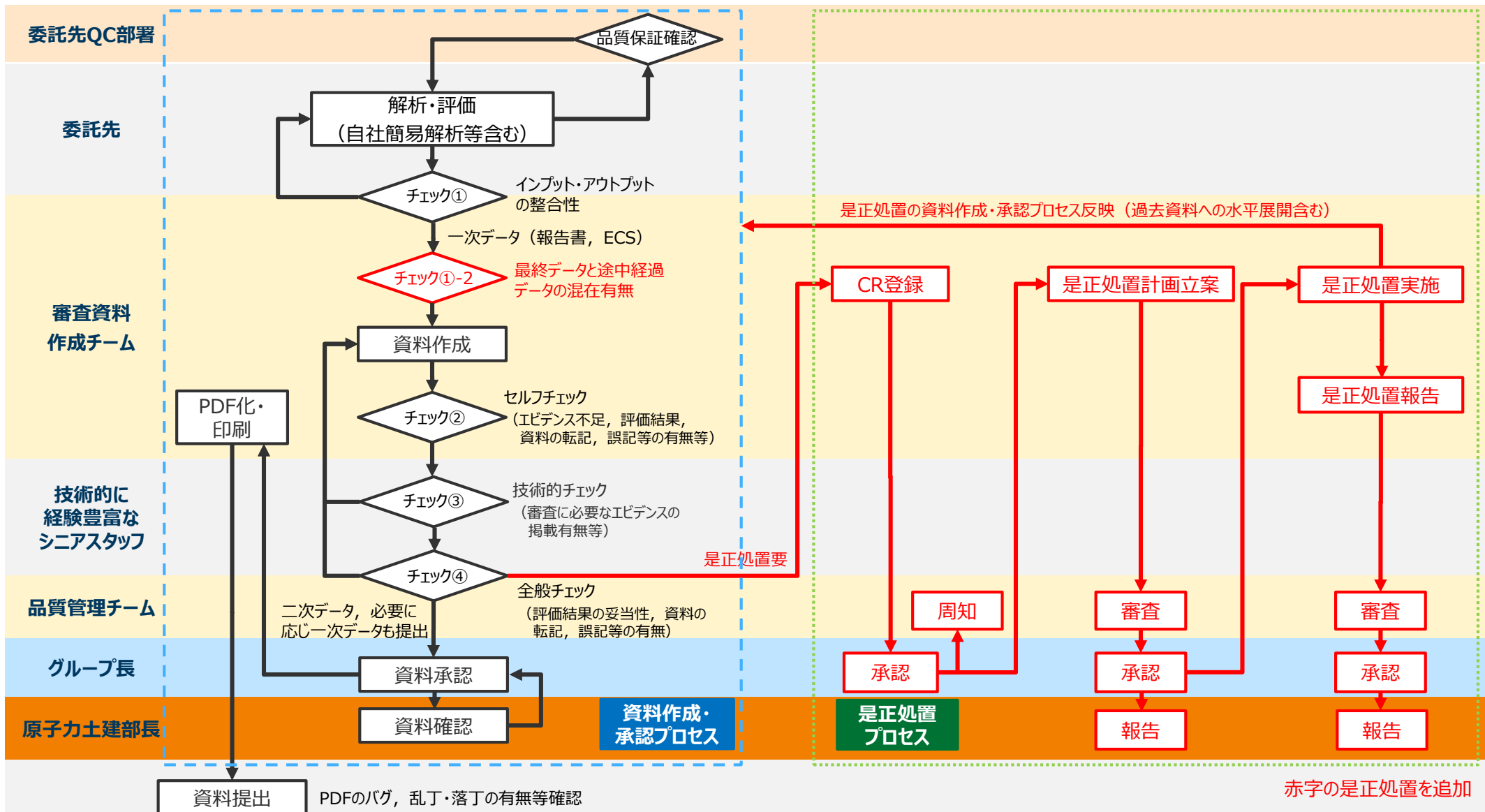
2017年12月15日 第532回審査会合（海洋プレート内地震の地震動評価）

評価結果の貼り間違い



審査資料作成における品質保証体制

■ 2020年7月時点でQMS上の是正処置登録を行っていなかったことから、今回、改めてCR登録し是正処置プロセスにて管理することとした。今後、審査資料のまとめの段階に入っていくことから、都度の品質確認体制を機能させると共に、万一間違いを発見した場合はしっかりPDCAを回し、正しい資料の作成に努めていく。



品質保証体制についてのまとめ

- 今回のデータの貼り間違い事象（二次データの作成ミス）について、あらためて発生事象、原因究明、対策について確認を行った結果、過去分の資料に対する確認を含めた是正処置を実施しており、現状、品質保証体制は構築されていると考えている。
- 一方で2020年7月のデータ貼り間違いについては是正処置登録を行っていなかったことから、改めてCR登録し是正処置プロセスにて管理することとした。
- 今後、審査資料のまとめの段階に入っていくことから、都度の品質確認体制を機能させると共に、万一間違いを発見した場合はしっかりPDCAを回し、正しい資料の作成に努めていく。



中部電力